

美浜原発の増設に向けた調査再開に断固抗議する

美浜原発の増設反対！ 原発回帰を止めよう 使用済核燃料の乾式貯蔵施設の建設を止め、関電原発ゼロに追い込もう

1. 美浜原発の増設に向けた関電の事前調査を止めよう！ 福井・関西の住民の声を聴け 滋賀県は「増設調査について県民に説明するよう関電に求める」と表明 (8月1日申入れ)

関西電力は7月22日、美浜原発増設のための地質調査を開始すると発表した。私たちはこれに断固抗議する。

事前調査は、福島原発事故後に中断した増設に向けたボーリングなどの地質調査で、調査完了までに複数年かかるという。調査範囲は、敷地内外にわたり「敷地内から北側にある山地にかけての範囲を中心に行う」計画だ(7月22日 NHK ニュース)。20年後の「革新軽水炉」の完成を狙っている。

関電は同日に、美浜原発所長らが福井県、美浜町、高浜町、おおい町に説明に向いた。福井県は、関電の自主的調査なので、事前了解等は必要なく、県としての判断はしないと述べ、調査開始を容認した。美浜町長は、町議会で反対意見が出ていたにも関わらず、8月4日に調査受入れを関電に伝えた。議員や住民の声を無視するなど許されない。

他方で美浜原発から30km圏内に入る滋賀県知事は、関電から事前に説明がないことに不快感を示し、「調査、建設に時間も費用もかかる。これからも原発が効率的で安全な電力源足りうるのか、議論、検討が必要だ」「新たな原発建設となれば、規模、内容、万が一の影響、対策をどのように講じるのか。きちんと意見を言う」と述べている(7月29日の定例記者会見)。

関電の大株主の大阪市長は、新たな原発の稼働は使用済核燃料をどうするのか等が前提だとして、その計画を早く示すよう求めた。

関電は地元美浜町で住民に説明するだけで、調査を進めると述べている。福井・関西でも調査計画等を説明し、住民の声を聴くべきだ。8月1日の滋賀県申入れで県は、「増設調査について県民に説明するよう関電に求める」と回答した(5頁)。各地で説明を求める声を広げていこう。



美浜原発の地図 グーグルマップより 図の上が北側

目次

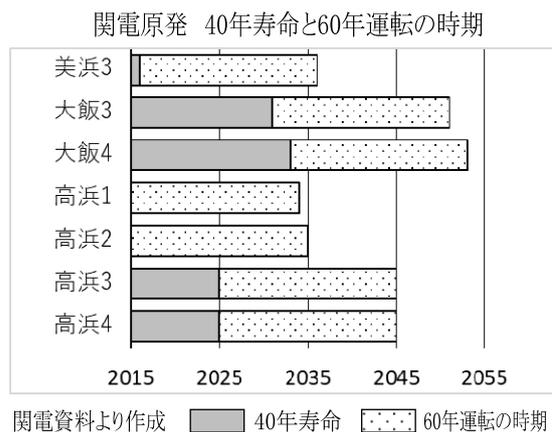
- ▼美浜原発の増設反対・・・p.1
- ▼(投稿)許してはならない愚行・・・p.4
- ▼8/1 滋賀県申入れ報告・・・p.5
- ▼美浜原発の乾式貯蔵の問題点・・・p.6
- ▼(投稿)来年1/20 玄海原発裁判の判決・・・p.8
- ▼7/18 大飯裁判報告・・・p.10
- ▼(投稿)屋内退避では被ばくは避けられない・・・p.12
- ▼6/13 福井県議会に陳情書提出・・・p.14
- ▼7/10 避難者関西訴訟の報告・・・p.15
- ▼高浜4号でまたも蒸気発生器の細管減肉・・・p.16

右図のように、関電の原発は 60 年運転を実施したとしても、20 年後の 2045 年には運転できる原発は 2 基しかない。そのため増設調査に踏み切ったのだ。

さらに「新しい原発の方が安全」等というが、今後 20 年近くは老朽化した原発の運転も継続する予定だ。老朽化した原発の設備利用率は、2024 年の 7 基平均で 88.5%にも達している。

高浜 4 号では、またも蒸気発生器細管で減肉等が見つかった（7 月 23 日関電発表）。減肉率はこれまでの最大で 68%にも達し、減肉は発生しないとしていた支持板上部で起きている（16 頁）。

老朽原発に鞭打つ関電の原発推進は、事故の危険を一層高める。その上さらに原発増設で原発依存を続けるなど許されない。



5. 老朽原発の運転を止めるため、乾式貯蔵施設の建設を止めよう

関電の既存の原発は、使用済核燃料プールが今後 3～5 年で満杯になり、原発の運転ができなくなる。そのため敷地内で乾式貯蔵施設の建設計画を進めている。しかし、約 50 年後に搬出する中間貯蔵施設は何も決まっていない。六ヶ所再処理工場について日本原燃社長は、「70 年運転、2100 年まで運転可能」などと、国の政策と東電のむつ中間貯蔵増設計画に合わせて、なんの根拠もなく大ぶろしきを広げている。

一方で、乾式貯蔵施設の建設を止めることができれば、老朽原発は運転停止に追い込まれ、関電の原発ゼロの時代を迎える。原発のない新しい暮らしの中で、人々の原発増設への期待も関心も遠いものになるに違いない。

規制委員会は 5 月 28 日、高浜 1 期目の乾式貯蔵施設の設置変更を許可し、6 月 13 日には福井県の原子力安全専門委員会が規制委の判断を了承した。さらに関電は、同日 13 日に大飯の乾式貯蔵施設の補正申請、高浜 2 期目の申請を出した。美浜の乾式貯蔵施設の審査は終盤に近づいている。しかし、土砂災害の危険性等について具体的評価は行われていない（6 頁）。

他方で、福井県の 6 月議会（6 月 16 日～7 月 8 日）では、高浜 1 期目の建設の事前了解の判断は先送りとなった。6 月 13 日、避難計画を案ずる関西連絡会と原発設置反対福井県民会議は、乾式貯蔵の建設を認めないこと、説明会の開催等を求める陳情書を県議会に提出した（14 頁）。県議会では、建設の事前了解の判断の時期や貯蔵期間を明確にすべき、六ヶ所再処理工場の完成が遅れた場合の対応、既に高濃度に汚染されたレッドセルの検査は可能なのか等の質問・意見が議員から出された。知事は、使用済核燃料の具体的な搬出時期の考え方や地域振興策の具体化がまだ関電や国から示されていないと答弁するにとどめた。8 月 6 日の「共創会議」で関電や国が地域振興策を出してくる可能性がある。建設の同意を一步進めようとするに違いない。

福井県の 9 月議会（9 月 3 日～30 日）に向けて、陳情や議員への働きかけを強めよう。同時に関西でも自治体申し入れ等で反対の声を広めていこう。

原発回帰を狙う美浜原発の増設に反対していこう。福井と関西、中部など全国の運動が連帯して、数年かかる調査を止めていこう。

乾式貯蔵施設の建設を止め、関電の老朽原発停止へと進もう。

福井の団体と避難計画を案ずる関西連絡会の抗議声明（7 月 24 日）<https://x.gd/BOM4U>